

はちじょう

- 八条遺跡は、大和郡山市南西端部の八条町集落（環濠集落）の南



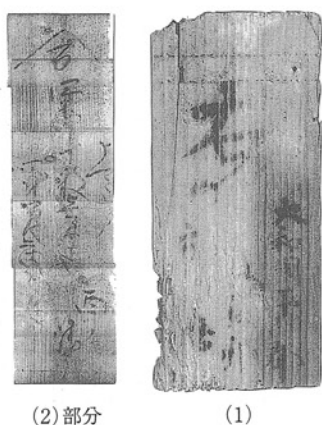
今回の発掘調査は京奈和自動車道の建設事に伴うもので、一九二一〇m<sup>2</sup>につ

木簡は、街道沿いの幕末から明治初期にかけての町家遺構に関連

8 木簡の釈文・内容

(1) 大和国平群郡





(2) 部分

(1)

奈良県立橿原考古学研究所『八条遺跡』(二〇〇六年)

(坂 靖)

SEI三

(2)

合 四番

上々□□  
丁数壺□也  
□本間や庄右衛門殿

西丁  
清二郎

1962×320×20 061

(1)は、上部に二本の刻線があり、その間の左右二カ所に釘孔がある。住所と名前が書かれており、町家の表札に使用されたものである可能性が高い。(2)は、スギの板材に大書したもので、数字と人名が記されている。井戸の築造と何らかの関係がある可能性がある。

なお、釈読にあたっては、天理大学の谷山正道氏のご教示を得た。

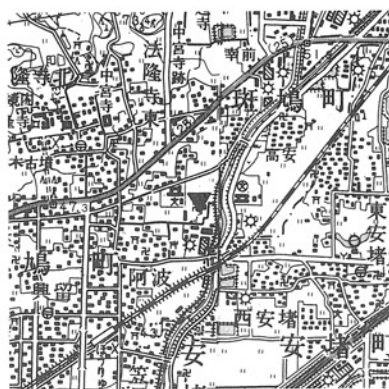
## 9 関係文献

## 奈良・上宮遺跡

かみや

- 1 所在地 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺南三丁目
- 2 調査期間 第一次調査 二〇〇一年(平13)三月
- 3 発掘機関 斑鳩町教育委員会
- 4 調査担当者 平田政彦
- 5 遺跡の種類 官衙跡・寺院跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上宮遺跡は、法隆寺の南東約一・二kmの富雄川右岸の沖積地に立地している。一九九一年度の発掘調査における奈良時代的大型掘立



(大阪東南部・桜井)

柱建物群の検出と、平城宮・京所用瓦と同範の瓦の出土から、『続日本紀』に記載のある称徳天皇の行宮「飽波宮」である蓋然性が高いと考えられている。

一方、当遺跡内には、聖徳太子薨去の宮「飽波葦垣宮」の跡地に、嘉祥二年